



市民と議会の意見交換会

質問なども受付ける予定です。今回は、各活動についてじっくりお話を聴く予定です。

糸島市議会では、昨年2月に議員が地域に出向いての意見交換会を開催しましたが、今回は各種団体（高校生、大学生、シニアクラブ連合会、NPO・ボランティア）との意見交換会を2月に開催します。

議員が3班に分かれてお伺いし、議会の仕組みや活動、市の現状について説明したのち、各団体の活動に対する悩みや課題について意見を頂き、市政全般に対する

今年も皆様にとって
希望にあふれた年でありますように。

郵便はがき

8 1 9 1 1 9 0

料金受取人払

前原郵便局
承認

3221

(受取人)

糸島市波多江駅北 3-21-18

三嶋ひでゆき 行

差出有効期限
平成30年12月
31日まで

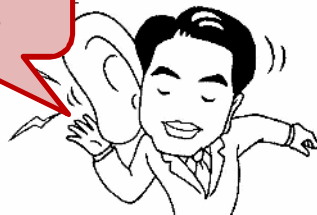


- 性別： 男性・女性 *どちらかに○を
- 年齢： 20代・30代・40代・50代・60代
70代・80代以上

●お差し支えなければ、ご記入をお願いします。

- お名前
- ご住所
- 電話

よろしくお願いします。
申上げます。



最後まで、私のつた
ないニュースをお読頂き、
心より感謝申し上げます。

日頃より多くの皆さんと、市政に
関して話が出来れば良いのですが、
なかなか叶わないのが現状です。

お声掛け頂ければ、どこにでも
話を伺いに上がります。ハガキも
添付しておりますので、市政に対す
るご意見やご要望、ご提案などござ
いましたら、よろしくお願いいたします。

匿名でも構いません。どうか忌憚
のないご意見をお寄せ頂けたら
幸いです

伊都国 21

糸島市波多江駅北 3-21-18
電話 092-332-9118
http:mishima-hideyuki.jp
三嶋ひでゆき



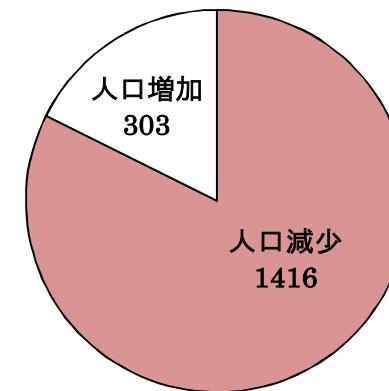
糸島市議会議員

“糸島”はテレビや新聞・雑誌に毎週のように取り上げられ、全国的な広がりを見せています。これだけ評価されているのは、糸島が持つ多くの魅力（多様な食材、歴史、自然、大都市の隣という立地）に加え、市民の方のたゆまぬ努力と、市の地道な広報活動によるものです。一時期低迷していた人口も100,171人と（H28年11月末時点）若干ですが増加傾向で推移ししています。

82.4%の自治体で人口減少 (H27年国勢調査結果)

全国に1,719の市町村がありますが、うち1,416の市町村で人口が減少転じており、5年後には9割の市町村が人口減になると推測されています。

47都道府県別にみると、東京、千葉、埼玉、神奈川、愛知、滋賀、福岡、沖縄以外の39は人口減少に転じています。



『地方創生』は幻想

国は、日本全体の人口が減少する中、東京一極集中を解消し、地方の人口減少や地域活性化のためにH24年から地方創生に取り組んでいますが、その手法や効果については、はなはだ疑問を感じます。

バラまきでしかない『プレミアム商品券』

国は、地域振興の名目で“地域のお店で買い物をするキッカケとなれば”と、その地域のお店でしか使えないプレミアム付き商品券（例：5万円で6万円分使える）発行のための地方交付税を配布。確かに、一時的に地域にお金が廻りましたが、その後の継続的な購入につながっているか、十分な検証が必要です。

プレミアムの上乗せ分は、皆さんから預かった大切な税金ですし、商品券を発行・販売・管理するのにも莫大な税金が使われています。本来、プレミアムが無くて“買いたい、利用したい”と思える魅力的な品揃え、サービスを提供するのが、本来の姿ではないのでしょうか。

『ふるさと納税』の罠

「ふるさと納税」は、都市部に住む人が、自分が生まれ育ったまちや、震災で被害にあった地域を応援する目的での税制優遇策だったにも関わらず、ここ数年は「地方の特産物をタダ同然でもらえる」という歪んだ姿になっています。

例えば、自治体に5万円を納付すれば、2,000円を超える4.8万円の住民税・所得税が控除され、納付した地域から霜降り的高级肉やフグの刺身などの返礼品がもらえるシステムで、高額納税者に有利に出来ています。FFGのアンケート調査でも納税した理由は「返礼品が魅力的だった」が87.5%です。

確かに返礼品に地域の特産物を使えば、地元企業や生産者には嬉しいことですが、**そもそも税金は「その地域の公共を運営するための会費」**みたいなものです。競争に負けるということは自分のところの税収が減ることを意味しており、「ふるさと納税」を獲得するために、特産品のない山村の自治体は“タラバ蟹のセット”を返礼品にしている自治体も現れています。こんな不公平で馬鹿げた競争が、未来永劫右肩上がりが続く訳ではありません。最後は誰もが疲弊してしまいます。

シャッター商店街の再生

“年末の大安売りの時は、黒山の人だかりで歩くのも大変だった。でも今は…”
“中心市街地の活性化を”という声を聞きます。私も5年間ほどボランティアで商店街の活性化に取り組んだことがありますが、挫折した記憶があります。

まず、商店街の方が本気で地域再生を考えていない。月に一度のイベントには人は来ますが日頃は閑散としています。何故か？**魅力的な商品が無い。行っても楽しくない**に尽きると思います。

商店街はモノがない時代、人の移動手段(車)が少なかった時代のもので、補助金をつぎ込んで“魅力”がなければ誰も来ません。今話題の高松市の丸亀町商店街は、行政にほとんど頼らず店主や地権者が本気になって取り組んだ成果です。**補助金は大切な税金**です。あくまで一時的なカンフル剤であり、いつまでも頼らないと成り立たない事業は、いずれ消滅する運命にあります。

付け焼刃的な取り組みでは、まちは衰退するばかり

昨年、人口が少なく、かつ減少率も著しい県(過去10年間の国勢調査結果)の幾つかの市町村を視察に行ってきたが、正直厳しいものがあります。

	人口	減少率
高知県	728,000	-8.5
島根県	694,000	-6.5
鳥取県	574,000	-5.4

多くのまちで「特産品づくりによる地域産業起こし」「観光への取り組みによる訪問客数の増加」「B級グルメグランプリ」など、金太郎飴を切ったような同じような内容です。“そんな取り組みで本当に産業が起き、若者が戻って来てまちが再生するのか”という疑問が残ります。

個々の市町村を見ると、島根県の海士町(人口2,359人の内、521人がIターン)や、高知県の馬路村(人口1,000人にも満たない村が、柚子を特産品にして年商30億円の売上。ちなみに「伊都菜彩」の年商は約40億円)など、大変頑張っているところもありますが、そんなところは、何年も本気で地道な努力を積み重ねてきた実績があります。

“人口が減るとまちが寂れ、日々の暮らしがどれだけ厳しくなるのか”を実感しました。

日本で一番元気な“福岡市”と、どう付き合うか

H27年の国勢調査をみると福岡市の人口は約154万人。政令指定都市の中では5番目の人口です。増加数・増加率ともNO.1で、5年間で約7.5万人も増え2位の川崎市の約5万人を大きく引き離し、特に若者率(15歳~29歳)は19.5%とダントツの1位です。この元気な大都市の隣という立地は糸島の大きな強みです。

糸島をもっと魅力的なまちにするため

皆さんはあまり実感が無いかもしれませんが、他の地域を知れば知るほど、糸島が**“全国的にも大変恵まれた宝のまち”**だという事に、あらためて気づかされます。

糸島の魅力や強みは人口減少が続く中山間地や海岸沿線部が担っています。この地域の定住促進や自然環境の保全。市全体での若者の働く場所の確保や婚活、高齢者の方の生き甲斐づくり、健康づくりのためのスポーツ振興などを、単体で考えるのではなく、20年、30年後を見据えた**“人と金が集まり、地域で循環する仕組み”**を、総合戦略的に構築すべき時期だと思います。

議員の役割

今年糸島市にとって新たな決断の年になると思います。

今まで合併で優遇されていた地方交付税の減少、老朽化した公共施設の更新・統廃合、総合運動公園建設、築43年を過ぎた一部耐震性が劣る本庁舎の建設の是非など大きな課題を抱えています。

今までの議員ように、市の提案にただただ手を挙げるだけでなく、大切な税金の使い方を**市民目線で考え抜き、覚悟と責任**をもって提言できるよう、さらに精進してまいります。

